

展覧会概要

会期：2020年1月7日（火）～3月22日（日）
会場：戸栗美術館
所在地：東京都渋谷区松濤 1-11-3
開館時間：10:00～17:00（入館受付は 16:30 まで）

※毎週金曜日は 10:00～20:00（入館受付は 19:30 まで）

休館日：第4週を除く月曜日

※1月13日（月・祝）は開館、1月14日（火）は休館。

※会期中の毎月第4月曜日（1月27日、2月24日）はフリートークデーとして開館。

入館料：一般 1,000 円/高大生 700 円/小中生 400 円（団体 20 名様以上で 200 円割引）

※1月7日（火）～1月31日（金）は新成人の方は入館料無料。

受付にて年齢のわかるものをご提示ください。

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分

※当館には駐車場・駐輪場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

美術館概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987 年 11 月に、旧鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里焼、鍋島焼などの肥前磁器および、中国・朝鮮半島などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



展示解説

当館学芸員による展示解説を行います。

■第2・第4水曜 14:00～15:00

（1/8 1/22 2/12 2/26 3/11）

■第2・第4土曜 11:00～12:00

（1/11 1/25 2/8 2/22 3/14）

■予約不要

（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）

フリートークデー

展示室でお話をしながらご鑑賞いただける日です。

■毎月第4月曜日（1/27 2/24）

■10:00～17:00（入館受付は 16:30 まで）

当日は 30 分間のミニ展示解説も開催。

■14:00～14:30

■予約不要

（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）

次回・次々回展示

『戸栗美術館 名品展Ⅰ—伊万里・鍋島—』

2020年4月11日（土）～6月7日（日）

『戸栗美術館 名品展Ⅱ—中国陶磁—』

2020年7月7日（火）～9月9日（水）

2020 年度春夏に、収蔵品による名品展を二期に渡って開催いたします。
Ⅰでは収蔵品の中核である伊万里・鍋島を、Ⅱでは 13 年振りとなる中国陶磁を展観。戸栗美術館自慢の名品が一堂に会するまたとない機会です。
詳細は、添付のご案内をご覧くださいませ。



色絵 十七樞繋ぎ文 皿
鍋島 江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 30.5 cm



青花 唐草文 稜花盤
景德鎮窯 元時代（14世紀）
口径 46.3 cm

読者プレゼント等へのご協力について

展覧会情報について掲載・放映いただける場合には、読者・視聴者の方へのプレゼントとして、招待券のご提供も承っております。お気軽にご相談くださいませ。

展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館

広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL：03-3465-0070

FAX：03-3467-9813

URL：http://www.toguri-museum.or.jp/

E-mail：kouhou@toguri-museum.or.jp



プレスリリース

たのしいうつくし 古伊万里 のかたちⅡ

会期

2020年1月7日（火）～3月22日（日）

やきものにあらわされた「うつくしいかたち」

江戸時代、国内外の人々を魅了した伊万里焼には様々な「かたち」が見られます。二期に渡ってその魅力に迫る企画展『たのしいうつくし 古伊万里のかたち』のうち、後期は皿や瓶、水注など、人々の生活を飾った「うつくしいかたち」の作品を中心にご紹介いたします。

機能と美のコラボレーション

丸に四角、花、葉、瓢箪、鳥、兎、樽、団扇……。これらは古伊万里に見られるかたちの、ほんの一例です。

古伊万里とは、江戸時代に佐賀・有田で作られた磁器・伊万里焼のこと。17 世紀初頭に日本初の国産磁器として誕生したもので、試行錯誤を重ね、半世紀ほどで成形や絵付けなどの技術が飛躍的に向上。19 世紀に入るまで国産磁器シェアをほぼ独占するとともに、西欧を中心に海外へも輸出されました。

有田では、国内外からの需要に応じて、多種多様な磁器を焼造しました。皿や鉢、猪口、瓶、西欧向けにはティーポットやシュガーポット、ワインカップなどといった器種としてのバリエーションはもちろんのこと、装飾としてのかたちも充実しています。轆轤成形のみならず、土型を活用したり、彫り文様を施したり、絵付けと組み合わせたりと、技術を駆使して自由自在に様々なかたちを生み出しました。

二期に渡って古伊万里のかたちの魅力に迫る企画展『たのしうつくし 古伊万里のかたち』のうち、後期は皿や瓶、水注など、江戸時代の国内外の人々の生活を飾った「うつくしいかたち」の作品を主として、約 100 点を展示いたします。

《展覧会紹介文》どうぞご活用ください。

■24word

「うつくしいかたち」の古伊万里約 100 点を展観。

■51word

皿や瓶、水注など、江戸時代の人々の生活を飾った「うつくしいかたち」の古伊万里を紹介。約 100 点を出展。

■105word

江戸時代、国内外の人々を魅了した伊万里焼には様々なかたちが見られます。轆轤や土型などの成形技術を駆使して製作された皿や瓶、水注など、当時の人々の生活を飾った「うつくしいかたち」の古伊万里約 100 点を出展。

《用途に合わせたかたち》

伊万里焼は江戸時代の人々にとって実用品や室内調度品であり、機能性がまず求められました。そのため、必要な用途に合わせて様々な器種が製作されました。加えて、機能だけでなく見た目も重要。機能と美を兼ね備えた優品の数々をご覧ください。



甕・壺

水や食料を蓄える容器。江戸時代には茶色や灰色のシンプルな陶器や炆器が主流でしたが、清涼感ある染付や華やかな色絵も。



蓋物

国内外向けに大きさも造形もバリエーション豊かな蓋物。日本では蓋付きで冷めにくいので温かい料理を盛るのに活躍しました（左）。西欧ではボンボニエール（菓子入れ）としても良し、そのまま室内調度品として部屋に飾っておいても良しと、重宝されたことでしょう。



水注

西欧輸出向けのティーポット。熱い茶をそっと入れられる注口と、大きな弧を描く把手の曲線が優美。

②

①染付 山水鳳凰文 甕

伊万里 江戸時代（17 世紀後半）
高 27.0 cm

←色絵 葡萄文 瓜形壺

伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17 世紀中期） 高 21.2 cm

②色絵 鳳凰花唐草文 水注

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17 世紀後半） 通高 16.5 cm

✓染付 蛸唐草文 八角蓋物

伊万里 江戸時代（19 世紀） 通高 13.2 cm

③色絵 丸文 蓋物

伊万里 江戸時代（17 世紀後半）
通高 17.7 cm



③

《時代や地域によって異なる「美意識」》

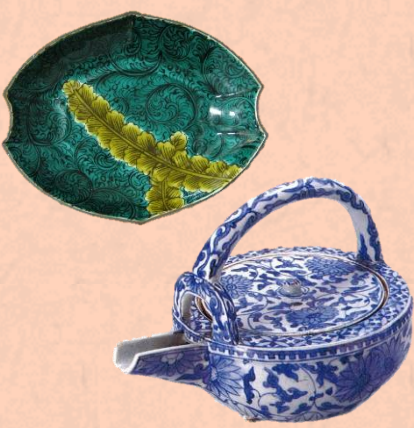
現代のような多様化した時代にどんなものを「うつくしい」と感じるかは人それぞれ。個々人の感性があったのは江戸時代も同じでした。江戸時代と一口に言っても、実際には約 260 年の歳月があり、その中で流行は常に移り変わるもの。また、江戸と上方など、地域によっても好みは異なりました。需要者ありきの伊万里焼には、時代や地域の流行や好み、つまり江戸時代に混在した美意識が率直にあらわれています。



17 世紀前期

織部焼や唐津焼など桃山茶陶の名残からか、豪放さが特徴。

染付 楼閣山水文 鉢 伊万里
江戸時代（17 世紀前期）
口径 46.3 cm



17 世紀中期

遠州好みのできいさびの一方で、「かぶき」の力強さも。

上：色絵 羊歯文 変形皿 伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17 世紀中期）
口径 15.1 × 12.2 cm
下：染付 菊唐草文 水注 伊万里
江戸時代（17 世紀中期） 高 15.8 cm



17 世紀後半以降

海外輸出の幕開けで、西欧の美意識が流入してくる。

④色絵 花卉文 輪花皿 伊万里
江戸時代（17 世紀末～18 世紀初）
口径 34.2 cm



17 世紀末以降

上方好みの派手やかさと、江戸好みの「粹」が併存。

左：色絵 壽字宝尽文 鉢 伊万里
江戸時代（18 世紀前半）
口径 22.0 cm
⑤：染付 花唐草雲龍文 瓶 伊万里
江戸時代（18 世紀前半） 高 26.6 cm